

上級生との交流形式で行う、  
地域看護学実習に向けた実習地情報交換会の取り組み

窪田志穂, 田中美延里, 奥田美恵, 入野了士, 長尾奈美, 野村美千江

愛媛県立医療技術大学紀要 第15巻 第1号抜粋

2018年12月

## 上級生との交流形式で行う、 地域看護学実習に向けた実習地情報交換会の取り組み

窪田志穂\*, 田中美延里\*, 奥田美恵\*, 入野了士\*, 長尾奈美\*, 野村美千江\*

### Information Exchange Meeting for Clinical Practice in Community Health Nursing by Collaborating with Senior Students

Shiho KUBOTA, Minori TANAKA, Mie OKUDA,  
Satoshi IRINO, Nami NAGAO, Michie NOMURA

Keywords : 情報交換会 上級生 交流 地域看護学実習

#### 序 文

地域看護学においては、多様な地域看護の対象と活動、社会資源を幅広く理解し、学生がどんな職場で従事することになっても、対象の生活や居住する地域に目を向けて看護を展開できるようになることが重要である<sup>1)</sup>。住民の生活や地域を知り、またそれらに寄り添った看護活動を学ぶ上で、臨地実習の果たす役割は大きい。

地域看護学実習は、自治体保健師の活動の場である行政機関を実習フィールドとすることが多いが、病院実習とは異なり、行政機関の一施設で一度に受け入れることのできる実習生の人数には限りがある。また、一定期間の実習の中で多様な事業を経験し、実習目標を達成するためにも、各施設に学生を少人数で分散した配置が主流である。

本学の地域看護学実習は、3年次後期の必修科目である。実習フィールドは愛媛県内の全保健所と管内市町であり、学生は現地の保健所や市町保健センター、支所等を拠点に学習を行う。東西に広く、山間部から島嶼部まで多様な地形を有する愛媛県の地理的環境、また移動に利用できる公共交通機関も限られるという状況から、場合により宿泊を伴う遠隔地実習となる。学生は普段の生活の場と異なる環境の中で実習を行うこととなるため、スムーズに実習に入るための準備がより重要になる。

そこで地域看護学領域では、学生が実習配置への希望を検討する際の一助とすべく、既に地域看護学実習を終えた4年生との交流形式で、実習地情報交換会(以下、情報交換会)を毎年開催している。本稿では、平成21年度に第1回を開催し今年度10回目を迎えた情報交換会の、これまでの取り組みと今後の展望について報告する。

#### 地域看護学実習の概要と情報交換会開催の経緯

##### 1. 地域看護学実習の概要

本学では前身である短期大学の昭和63年開学時から、看護師教育課程に地域看護学を開講しており、地域看護学実習は全員必修の科目である。平成24年度入学生から保健師教育選択制(一学年75名中、定員30名程度)のカリキュラムに改正されたことに伴い、地域看護学実習は3年次後期必修4単位から2単位に変更となり、1クール2週間の実習を行っている。加えて公衆衛生看護学等選択者(保健師コース選択者)は4年次に公衆衛生看護学実習3単位を含む選択科目を履修することにより、保健師国家試験受験資格を得る教育課程となっている。

地域看護学実習の実習目的は、ヘルスプロモーションの理念を基盤に、保健所・市町村における保健医療福祉活動の実際を通して、住民の健康レベル向上をめざす看護活動の方法・技術を学ぶことである。必須経験項目

\*愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科

は、保健所・市町のオリエンテーション、保健事業への参加、家庭訪問、住民・関係者インタビューを含む地域の情報収集と地区踏査、保健師の地区活動に関する語りの聴取としている。本実習で、学生は住民目線に立ち、各種保健事業を社会資源として理解し、地域特性と住民の生活、健康を関連づけて、地域の望ましい姿を考察する<sup>2)</sup>。

実習グループは学生2～4名で編成している。実習フィールドは前述のように、県内の全保健所(県6, 中核市1)と、県下20市町のうち、公衆衛生看護学実習の実習フィールドであり本学の所在地でもある砥部町を除く、19市町としている。県保健所は管内市町の実習施設と離れている場合が多く、また市町の実習施設も保健センターや本庁、支所等1か所のみとは限らない。さらに各日の参加事業等により、実習施設を拠点に地域内の施設に出向いて実習を行うこともある。そのため学習以前に、まず実習中に身を置く環境を学生が把握し、見通しを持って実習に臨めるよう支援することは、重要な点の一つである。

## 2. 情報交換会開催に至る経緯

学生には、実習地となる自治体の場所や特性、統計情報、特色ある地域看護活動など、その地域での実習に関連する情報を可能な限り把握し、イメージを膨らませた上で、自己の興味関心に沿う実習地を希望してほしいと考えている。しかし前述した実習形態の特徴から、実際に実習配置を行う際には、各学生の出身地等の背景や、利用可能な交通手段、宿泊場所の確保が可能か等、個別的な事情についても勘案する必要がある。実習先が実家等のある地域でない場合は、宿泊施設を利用しそこから通学することとなるため、宿泊施設や交通手段に関する情報収集は、学生にとっても教員にとっても必須事項である。

当初から宿泊施設に関する個別のアンケート調査を実施し、翌年以降の実習生に宿泊に関する情報提供を行っていたにも関わらず、学生や保護者からの問い合わせはしばしばあり、教員はそれらに個別に対応していた。そこで、グループ編成に先立ち、実習環境や宿泊施設での生活のための準備物等具体的な情報を、実習経験者である4年生から3年生へ直接伝えてもらうことが効果的であると考え、交流の場を設けることとした。このような経緯で、平成21年4月に第1回の情報交換会を企画、開催することとなった。

## 3. 情報交換会から実習までの流れ

4月下旬の情報交換会の後、学生は大型連休中に保護者等と相談をし、5月上旬に実習配置調査票を提出する。調査票の情報を基に、教員は実習配置、グループ編成を検討し、学生との調整を経て配置案を作成する。

3年次前期の7月上旬に行う地域看護方法論の演習では、各実習地の地域特性を把握するための既存資料活用

演習として、自治体のホームページ等で公開されているデータを用いた人口動態分析や実習地の健康づくりの評価、Community as Partner Modelを用いた実習地のデータ整理を、配置案の実習グループで行っている。

## 4. 実習地情報のデータベース化

必要時に過去の情報を学生に提示できるように、毎年各実習グループの実習最終日に下記2種類のアンケートを行い、学生から情報収集した結果をデータベースとして整備している。

### 1) 地域看護学実習実態調査

主な項目は以下である。

#### (1) 交通手段について

各実習施設への通学に用いた交通手段、経路、所要時間、駐輪(駐車)場所、所要経費等の詳細について記載を求めている。

#### (2) 各事業の実施場所や移動方法について

#### (3) 実習施設的环境について

学生控室や荷物ロッカー等について、自由記述で記載を求めている。

#### (4) 下級生へのアドバイス、メッセージ

自由記述としている。例年、宿泊先から各実習地への所要時間や、現地に持参すべきもの、地域特性、各実習地のお勧めポイント等、多様な事柄が記入されている。

### 2) 学生の宿泊先情報

宿泊先の名称と住所、宿泊代金、部屋の間取り、部屋で使用できる電化製品等の設備、寝具等用意していくべきもの、実習先までの交通手段と所要時間、宿泊しての感想、最寄りのスーパーや飲食店等、滞在してみたの実態について記載を求めている。

## 情報交換会の実際

### 1. 実行委員の選出と役割

情報交換会は、開催当初から現在まで実行委員会方式で開催している。進級した4月早々に3年生の中から3名程度の実行委員を募り、運営方法についての打合せを行う。過去の開催状況を伝えながら、開催方法やより工夫できる点を共に検討することとしている。

実行委員は、4年生への質問を事前にクラスメイトから募集し、4年生に向けてのチラシに質問事項を掲載する。チラシを持参して講義等に出向き、4年生に参加を依頼する。どの実習地からも1名以上の参加があるように、教員も協力をして呼び掛けを行っている。

また、資料の事前配布、会場準備連絡、当日の司会進行、タイムキープ、マイク係等を分担して行う。情報交換会の終了後に教員と振り返りを行い、次年度への申し送り事項をまとめることまでが実行委員の役割である。

## 2. 資料準備

### 1) 事前配布資料

実習地についてある程度把握した上で情報交換会に臨めるよう、前日には以下の資料を配布している。

#### (1) 「地域看護学実習」実習配置について

実習の概要（実習場所、実習期間、施設別実習日数の目安）や、実習配置の方針、実習配置内定までのスケジュール、配布資料等での情報提供について掲載している。

#### (2) 地域看護学実習の実習地

当該年度の実習地を、愛媛県の地図上に記入したものである。実習地となる保健所・市町名（支所名）、受け入れ人数を記載している。また、他の配布資料を見たり情報交換会でアドバイスを受れたりする際に活用できるように、前年度分と併せて配布している。

#### (3) 実習施設一覧

実習の拠点となる施設の名称と住所を記載している。加えて、利用可能な病院宿舎がある場合は病院名、そしてそれ以外の宿泊場所や通学方法の例についても掲載している。この資料を作成するにあたり、必要に応じて教員から実習先の実習指導担当者に連絡を取り、宿泊先の候補や交通事情等について情報収集を行っている。

#### (4) 前年度の地域看護学実習内容

実習期間中に経験できる内容を知るための資料として、各実習地ごとの前年度の学生の実習内容を、時系列に一覧にしたものである。オリエンテーションに始まり、各必須経験項目、中間カンファレンス等を経て、最終反省会を終えるまでの経験内容を記載している。

### 2) 当日展示資料

実習地別のテーブルに、データベース化している実習地情報資料を展示している。また学内ネットワークの看護学科学生共有フォルダ内にも、それらをファイルとして保存し閲覧できるようにしている。

この他、教員相談コーナーに、病院宿舎関連資料や県内道路地図等を展示している。

## 3. 当日の運営

情報交換会は、1コマ90分を使って実施している。

まず始めに教員オリエンテーションとして、地域看護学実習地決定の流れについて10分程度で説明する。次に、4年生が実習地紹介として、各実習地のグループごとに3分程度でプレゼンテーションを行う。その後、30分のフリータイムを設けている。3年生は関心のある実習地で実習をした先輩のテーブルへ行き、直接質問や相談を行う。

## 4. 4年生へのアンケートの実施と回答内容

平成30年度は、46名の4年生の参加があった。今回、4年生から情報交換会に対する感想や意見を聴取することを目的として、匿名、自由記載のアンケートを実施した。情報交換会の経緯を資料化するにあたりコメントを

引用する可能性がある旨をアンケート用紙上に記載し、提出をもって同意を得たものとした。表1に回答内容を整理した。

## 情報交換会の意義と課題

### 1. 情報交換会の意義

#### 1) 3年生にとっての意義

3年生は、事前に資料に目を通し、情報交換会で先輩のプレゼンテーションを聞き、その後の個別相談で複数の先輩の実習体験談を聞くことで、多様な実習先や実習体験の情報を得ることができる。4年生へのアンケートの回答の中に、「自分が3年生のときに地区を選ぶことを迷っていたので、（情報交換会で）交通費やお勧めである部分を知ることができて良かった経験があった」との意見があったように、情報交換会の一連の流れの中で、地域看護学実習に向けて準備が必要なことや実習地で体験できることを具体的に把握し、実習地選択に役立てることができていると考えられる。

多様な情報を容易に入手することのできる現在の若い世代は、リアルな経験の前に、全体像やその行為の意味するところ、あるいは具体的に取り組む上での手順や留意点を体系的に学んでからその認識に沿って経験するという、「経験前に学ぶ」学習スタイルに慣れている<sup>3)</sup>と言われる。本情報交換会においては、実習前の早い段階で実習に関する情報を提示することで、個々の学生が実習を具体的にイメージしてレディネスを高めるとともに、実習に向けての講義・演習にも前向きに取り組むきっかけとなっている可能性がある。

また、学生によっては情報交換会が、実習に対する内発的動機付けの機会にもなっている。4年生は各実習先での魅力的な経験について生き生きと語り、それが先輩から後輩に伝わることで、縁もゆかりもない土地での実習であっても、「実習内容が面白そうだから、魅力的だから行ってみたい」というような希望を調査票に書く学生もいる。宿泊先の確保の問題や交通手段の制約もあるが、それ以上に実習先や実習内容に興味をもったり魅力を感じたりして希望する学生がいることは、学生同士のナラティブな情報共有を通じての成果であると考えている。ピア・ラーニングの有効性が注目されているが、本情報交換会でも、身近であり、先に実習を経験している先輩からのアドバイスは、教員からの一方向的な説明と比較して大いに効果的であると考えられる。

#### 2) 4年生にとっての意義

4年生は、情報を得る立場であった3年時の情報交換会から、1年経って今度は情報を伝える立場となっている。アンケート結果からは、当日の後輩達の様子と3年次の自分達を重ね合わせ、今度は自分達も役に立ちたい

表1 地域看護学実習に向けての実習地情報交換会に参加した4年生の感想や意見

<p><b>【3年次の自分にとっての意義】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が3年生のときに地区を選ぶことを迷っていたので、(情報交換会で)交通費やお勧めである部分を知ることが出来て良かった経験があった。</li> <li>交換会を通すことによって実際の負担額が分かり、選択の際に役立った。</li> <li>昨年この交換会がすごくためになったので、続くと良いと思う。</li> </ul>
<p><b>【現在の自分にとっての意義】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>自分達の実習体験を伝承できること</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇市が結構人気があり、みんな積極的に聞きに来てくれて嬉しかった。</li> <li>〇〇町の良いところを沢山伝えられて良かった。</li> <li>たくさん質問してくれたので、いいところを伝えられたと思う。</li> <li>今回は伝える立場となり、3年生に伝えられて良かった。</li> </ul> </li> <li>●<u>振り返りの機会となること</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回発表するにあたり、半年前のことを振り返れたので、自分達のためにも良かった。</li> </ul> </li> <li>●<u>他の実習グループと情報共有が出来ること</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>他のグループの人の話も聞けたので良かった。</li> <li>他のグループの地域実習の楽しそうな話を聞いて良かった。</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>【3年生との相互交流を通じての所感】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3年生の不安を少しでも軽減出来たようなので良かった。</li> <li>自分がやってもらった会に伝える側で参加するのは新鮮で楽しかった。</li> <li>いろいろ話を聞きに来てくれて、話すこちらも楽しかった。</li> <li>少しでもためになっていけばよいと思う。実習を頑張ってもらいたい。</li> </ul>
<p><b>【4年生から見た情報交換会の意義】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実際に説明することで分かることも多いので、良い機会だと思う。</li> <li>自分たちが昨年不安に思っていたことを直で伝えられるので、後輩にとっては不安の解消になると考える。</li> <li>ほかのメンバーの情報と比較して良さが伝えられるのが良かった。</li> <li>先輩から後輩に生の声を伝えることができるので、とてもいい会だと思う。</li> <li>自分たちが先輩から語り継いできたことを後輩に伝えられる点が、この交換会の良い点だと思う。</li> </ul>
<p><b>【今後に向けての改善点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●<u>時間の使い方について</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>フリータイムが30分は少し長いと思った。</li> <li>もう少し効率良くしてほしい。</li> </ul> </li> <li>●<u>運営について</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>比較できるように発表する内容を決めてくれた方が、何も知らない後輩には助かると思った。</li> <li>年度が替わり、実習先になっていない地域で実習をした4年生が時間を持て余していたのもったいないと思った。</li> <li>行きたいと思っている実習先は正直決まっていると思うので、関心がある実習先をピックアップした方が効率が良いのではと思う。</li> </ul> </li> <li>●<u>配布資料について</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習地のホテルの値段が掲載された資料を3年生にも配布すればよいと思った。</li> <li>3年時の実習の際に、来年の情報交換会のためにA4で情報をまとめておいて、配布してはどうか。</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10周年を共に迎えることができ、とても嬉しい。</li> <li>伝統ある実習のために、これからも情報交換会が続いたらいいと思う。</li> </ul>

と思いつつながら、経験を後輩に伝承できることに価値を見出していることが分かった。また、後輩の役に立てたことでエンパワーされている4年生もいることがうかがえた。

さらに4年生からは、情報交換会で他の実習先へ行ったグループとの情報共有ができることも利点として挙げられた。実習ローテーションで同時期に地域看護学実習を行ったグループは、実習最終日に学内報告会を行い実習体験を共有しているが、それ以外のグループの体験については公的に聞く機会がない。本情報交換会を通じて、愛媛県内のより多くの自治体における地域看護活動や他の学生の実習体験に触れることで、地域看護についての視野が広がっている可能性がある。

加えて、情報交換会が自分達の実習を振り返る機会となったということも、4年生から挙げた意見の一つである。和栗<sup>4)</sup>は、ふりかえりは学習者自身が自らの知識や体験、感情などを見つめ、意味を構築するプロセスを作り出すとし、ふりかえることで学習が促進されること、かつ大学で育成されるべき社会人基礎力<sup>5)</sup>や学士力<sup>6)</sup>にふりかえりが関連していることから、大学教育におけるふりかえり(リフレクション)支援の必要性を指摘している。本学では、学生のリフレクションの機会を確保し自己教育力の向上に資するためのツールとして、教員と学生が協働して実習ポートフォリオを開発し導入している<sup>7)</sup>。本情報交換会もこの実習ポートフォリオ活用の取り組みと共に、学生にとってのリフレクションの機会の一つになっていると考えられる。地域看護学実習を振り返り、体験や学びを整理して後輩に伝えることで、自己の実習経験を意味付けたり、成長を実感したりする機会となることを期待する。

### 3) 教員にとっての意義

各担当教員にとっても毎年の情報交換会は、実習を経験した学生の生の声から、愛媛県全域の多様な実習地に関する情報を得る貴重な機会の一つとなっている。また、学生が実習に求めることや支援を必要とする可能性のあることに気付いたり、慣れない環境で生活をしながら実習を行う学生をサポートするためのヒントを得たりする場でもある。

教員からの個別の声掛けやサポートは、学生が学習面以外での不安や困難を抱えず、実習を円滑に行う上で非常に重要である。教員は担当する実習地と、そこで実習する各学生の背景に合わせて、適切なサポートを行えるよう、事前に十分な情報収集を行う必要がある。引き続き、学生の実体験に基づいた有用な情報を、効率的に蓄積できる体制を整えていきたいと考える。

## 2. 今後の課題と展望

4年生へのアンケートでは、会の運営や配布資料について改善の余地があるという声もあった。それらの意見

を参考に、より有効な時間の使い方について今後検討を行うこととする。配布資料については、配布物の分量と必要性、各資料の有効な提示方法を考え、必要な情報が効果的に提供できるように再考したいと考えている。

市町における実習先は、とある市においてはある年度はどのグループも島嶼部の支所、その翌年度はどのグループも陸地部の支所での実習受け入れ、というように、同市町でも年によって支所等の実習先が異なることが少なからずある。当該年度には含まれない実習先で実習を行った4年生が担うことのできる役割について、今後、資料準備等で工夫できることを検討したい。

これまで、3年生にとって有用であることに重点を置いて情報交換会を企画してきた。今後は、アンケート結果を踏まえて4年生への教育的効果にも着目し、当日までの企画や準備、当日の運営において工夫できる点を検討していくことが、本会をより意義のあるものにしていく上で有効であると考えている。

## 引用文献

- 1) 岡本玲子(2009):保健師助産師看護師法の改正と保健師教育の展望(2) 看護師教育課程に必要な地域看護学、保健師教育課程に必要な公衆衛生看護学～前者の教育内容と、看護師の指定規則への提案～. 日本公衆衛生雑誌, 56(10), 750-757.
- 2) 野村美千江, 入野了士, 田中美延里, 他(2016):中山間地域で住民と協働する力を養う公衆衛生看護学実習-愛媛県立医療技術大学の取り組み-. 保健師ジャーナル, 72(6), 456-462.
- 3) 博報堂大学編(2014):「人が育ちにくい時代」の認識から始める.「自分ごと」だと人は育つ 博報堂で実践している新入社員OJT 1年間でトレーナーが考えること. p.22-50, 日本経済新聞出版社
- 4) 和栗百恵(2010):「ふりかえり」と学習-大学教育におけるふりかえり支援のために-. 国立教育政策研究所紀要, 139, 85-100.
- 5) 経済産業省(2006):「社会人基礎力」とは. [http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku\\_image.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku_image.pdf)
- 6) 中央教育審議会(2008):学士課程教育の構築に向けて(答申). [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_/\\_icsFiles/afielddfile/2008/12/26/1217067\\_001.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_/_icsFiles/afielddfile/2008/12/26/1217067_001.pdf)
- 7) 江崎ひろみ, 窪田志穂, 宮宇地秀代, 他(2016):自己教育力を高める「実習ポートフォリオ」の開発-学生と教員の協働によるアクション・リサーチ-. 愛媛県立医療技術大学紀要, 13(1), 21-29.

---

## 要 旨

本学の地域看護学実習は愛媛県内全域に分散して行うため、実習地選択に先立ち学生が各地での実習について理解するための支援が重要である。そこで、毎年度当初に2学年の交流形式で実習地情報交換会を実施している。3年生は実習を終えた4年生の語りから、各自治体の保健活動や実習内容、宿泊先や交通手段について直接情報を得ることができる。地図や実習施設一覧、毎年の実態調査結果等を資料として提示している。

情報交換会への感想や意見の聴取を目的とした4年生へのアンケート結果等から、3年生は一連の流れを通じて実習への準備性を高めることに加え、情報交換会が実習に向けての内発的動機付けの機会にもなっていると推察された。4年生にとっては、体験を役立てることで自らもエンパワーされると共に、リフレクションの機会ともなり、また地域看護への視野が広がっている可能性も考えられた。

今後は4年生への教育的効果にも着目し、本情報交換会をより意義あるものにしていきたいと考える。

## 謝 辞

情報交換会の運営にあたりご尽力を頂いた実習補助者の八東育子様、戎居百余様に心より感謝申し上げます。

## 利益相反

本報告には利益相反に該当する事項はない。